



発行所 財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部44円
題字 井戸知事

火は見てる
あなたに離れる
その時を

平成十九年度理事会・代議員会開催

兵庫県消防協会

平成十九年五月二二日(月)クラウンプラザ神戸において兵庫県

消防協会理事会・代議員会が開催されました。

理事会・代議員会の主な議案は次のとおりです。

第一号議案

平成十八年度兵庫県消防協会

事業報告及び平成十八年度収支
決算承認について



理事会・代議員会

◎事業の実施状況

- ・ 会議の開催
- ・ 防火思想の普及事業
- ・ 機関紙の発行事業
- ・ 事業調査研究事業
- ・ 教育訓練事業
- ・ 消防操法大会事業
- ・ 表彰事業
- ・ 福利厚生事業
- ・ 地区振興事業
- ・ 消防団組織強化対策事業
- ・ 啓発用資機材等の整備貸与事業

◎決算の状況

- 収入額 四一、五一九、九八九円
- 支出額 三九、〇五〇、〇三五円
- 収支差額 二、四六九、九五四円

協議事項

- ・ 防災力強化県民運動の取り組みについて
- ・ 第三五回全国菓子大博覧会・兵庫「姫路菓子博二〇〇八」の前売入場券の購入について



報告事項

- ・ 平成十九年度兵庫県消防協会事業計画及び同収支予算について
- ・ 役員等の異動について

「兵庫消防」

地区通信員会議開催

平成十九年五月二日(水)に第二五回「兵庫消防」地区通信員会議を兵庫県災害対策センター会議室で開催しました。編集部といたしましても、皆様から親しまれる「兵庫消防」を作成していきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

- 神戸地区 神戸市消防局 藤森 栄二
- 阪神地区 伊丹市消防局 國尾 晃章

◎平成十九年度消防団員の研修参加について

- ・ 「ひょうご消防のつどい二〇〇七」の開催について

- 東播磨地区 加古川市消防本部 藤原 典男
- 中播磨地区 姫路市消防局 慶尾 靖雄
- 北播磨地区 加東市消防本部 中嶋 利久
- 西播磨地区 赤穂市消防本部 潤口 哲也
- 但馬地区 養父市役所 宿南 丈治
- 丹波地区 篠山市役所 石田 哲也
- 淡路地区 南あわじ市役所 善甫 忠昭

兵庫県功労者表彰式 盛大に行われる

平成十九年度兵庫県功労者表彰式が五月二四日(木)に兵庫県公館で執り行われ、六名の消防関係の方々が受賞されました。なお、受賞者は、次のとおりです。

◎防災・消防功労(消防関係者)

- 明石市消防団 団長 荻野 忠志
- たつの市消防団 団長 田中 旭



代表受領

豊岡市城崎消防団

- 団長 日生下慎一
- 西宮市消防団 団長 吉田 昭光
- 西宮市消防局 消防監 辻 喜正
- 伊丹市消防局 元消防正監 武内 恒男 (敬称略)

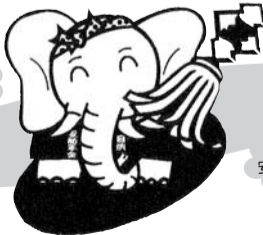


知事あいさつ

みんなで入ろう互助年金

消防互助年金

安全・確実・安心です!



老後の生活 安定のために!

【消防の仲間が支える互助年金】

人生80年時代! 老後の準備は怠れません
消防関係者一人ひとりの老後を充実させます

- ・ 会議などの際に、お呼びいただければ(財)日本消防商会の職員が説明に伺います
- ・ 費用は無料ですし、些少ですが会議費を助成致します
- ・ 消防互助年金制度説明用ビデオの貸し出しをしております

お問い合わせはフリーダイヤル 0120-658-494

地区通信

北播消防協議会総会を開催

北播磨地区

平成十九年五月二十五日(金)、加東市のホテルグリーンプラザ東条湖において、北播磨各支部から会員、来賓、退会者ら総勢二七名の参加をえて、平成十九年度第五十三回北播消防協議会総会を開催しました。

北播消防協議会は昭和三〇年に北播磨地区の西脇市、三木市、小野市、加西市、美嚮郡、加東郡、多可郡の七支部で消防諸活動の向上発展に寄与すること、広域的な連携をはかりスムーズな団運営を行うことを目的として発足しましたが、平成十七年度の市町合併により、現在は、西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市、多可郡の六支部で



北播消防協議会総会



吉田会長あいさつ



集合写真

議事では、平成十八年度北播消防協議会事業報告、平成十八年度北播消防協議会一般会計歳入歳出決算報告等、平成十九年度北播消防協議会事業計画、平成十九年度北播消防協議会一般会計歳入歳出予算等について協議いたしました。

また、支部から「消防団員の確保について」の議題が提出され、全国的な課題でもあり、この北播磨地区も同様の課題となっており、どう対処するべきかを各支部の団員確保の現状と対策について熱心に協議がこなわれました。

最後に、次期開催地であります三木支部の北播消防協議会中西副会長の閉会のことばで盛会の中に閉会しました。

構成しています。総会では、開会にあたり、吉田北播消防協議会会長のあいさつ、本総会の開催地であります加東市長山本廣一様におことばをいただいたあと、永年北播消防協議会の発展にご尽力され、数々の功績を残された前三木支部長の小山伊一様をはじめ五名の退会者の方々に感謝状と記念品の贈呈を行いました。続いて、退会者を代表して前小野市消防長の田中真司様から、北播消防協議会に対しお礼のおことばをいただきました。

次に、加東市議会議長の井上茂和様ほかご来賓の方々からご祝辞をいただきました。

「四五年間の消防団活動を振り返って」

元高砂市消防団分団長 阪口 武



私は、昭和三四年四月に印南郡曾根町消防団に入団しました。当時は、資機材、建物も本当にお粗末で、特に年末警戒の時などは大変寒く、暖をとるため、ドラム缶の中にレンガを積み炭火をおこし、一晩中警戒したものです。

消防団今昔

39

「自分たちのまちは自分たちで守る」

豊岡市城崎消防団団長 日生下 慎一



豊岡市は、兵庫県北東部に位置し、「コウノトリ悠然と舞うふるさと」をまちの将来像とし、コウノトリの野生復帰事業への取り組みを通して、人もコウノトリも住みやすいまちを目指しています。また、消防団は市町合併前の

そういう中でも団員たちは話をしながら和気あいあいといった感じで楽しいものでした。入団後、三年ほどで消防団の組織も一市一団体制となり、名称の変更とともに私の所属する消防団も分団となりました。在団中、多くの建物火災などにも出動したが、記憶に残っているのは、台風による水害です。昭和四九年九月に姫路市に上陸した台風二二号の時は、幼い子供、妊婦の妻を家に残して、夜を徹しての活動でした。

また、昭和五一年には姫路市別所の池の堤防が決壊し、市始まって以来の大水害となり、私の住む曾根町は全域が浸水し、まるで町が湖のようでした。私は、曾根分団の一員として子供や高齢者の方の救出活動を、消防本部や自衛隊の方といっしょにおこなったことを今もよく覚えていています。さらに、平成七年には阪神・淡路大震災を経験しました。曾根町は、建物の屋根が落ちるなどの小さな被害はありましたが、幸いにして死傷者や大きな被害はありませんでした。

最後に、在団時によく先輩方に言われた言葉を記したいと思います。「消防団は団結という力が武器」である、消防活動は一人では出来ない。一人ひとりがバラバラであっても成り立たないと言う当然の言葉が私の心に今も残っています。平成十六年三月に退団し年月が経ちましたが、今後も若い団員たちを陰ながら支援していきたいと思っています。



しかし、全国的な過疎化等の諸問題が消防団にも及び、入団者の減少等が今後の大きな課題となっています。

消防団は、まちの防災体制には不可欠であり更にその強化を図らなければならないことから、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛あふれる心意気を発信し、活力と魅力のある消防団づくりを進めてまいります。

「市民の安心・安全のために」

高砂市消防団

山本 良樹 団長



高砂市は県の南部に位置し、北は遠く中国山脈の支脈を仰ぎ、南は瀬戸内海播磨灘に臨んでいます。

市の東端を加古川の清流が南に走り、その豊かな水利は優れた景観、肥沃な土地となつて市民生活の大きな根源となっています。

結婚式やめでたいときに謡われる、「たかさごやこの浦舟に帆を上げて・・・」ではじまる謡曲

「高砂」と平和と長寿の象徴である「尉と姥」のいわれの発祥地である高砂市では、これを現代にうけつぎ、生涯のなかでの男女が夢をかたるまちをイメージし、昭和六三年七月にブライダル都市宣言を行いました。

山本団長は、昭和四二年に高砂市消防団に入団以降、持ち前

の正義感と熱意で副団長、分団長を歴任され、数々の災害現場での活躍、消防団業務に対する真摯な姿勢、確かな知識、豊かな経験から今年四月に、第五代目高砂市消防団長に就任されました。

日頃の団長は、規律に厳しい反面、団員への気配りも細やかで、その人柄から団員はもとより団幹部からも厚い信望があります。また、有事の際は「地域、団員一丸となって一致団結し、常備消防との連携を密にし、災害を最小限に食い止めなければならぬ」というのが団長の持論

わがまちの団長さん

144

「地域住民に信頼される消防団員をめざして」

姫路市網干消防団

中田 正成 団長



網干地区は、姫路市の南西部に位置し、北に霊山朝日山(大日寺)、その麓には田園が広がり、キヌヒカリ米の産地でもあります。

中央部には、魚吹(ウスキ)八幡神社あり秋の例大祭には、屋台十八台、檀尻四台が出演するという華麗で勇壮な祭りがあつて、灘のケンカ祭りに向けを取らない賑わいを見せます。

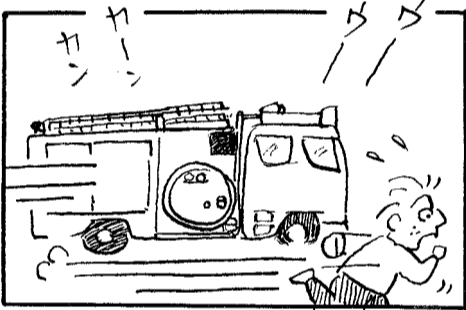
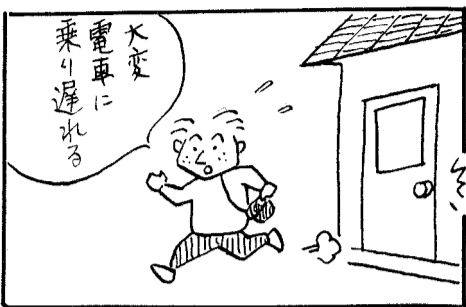
今年、姫路市の「ザ・祭屋台

in姫路」には網干地区から屋台十一台が出演し、姫路城三の丸広場で競演して賑わいました。また、南部には臨海コンビナート等特別防災区域に指定された大工場群を抱えた町でもあります。

中田団長は、農業・漁業に大企業等あらゆる産業が混在する中、今日は企業、明日は農区との会合と忙しく走り廻っています。

そして団員達には、救急応急手当指導員等の講習を積極的に受けさせることによって、団員のボランティア精神、消防・救急技術の向上に取り組み、地域住民に「さすが消防団は頼りになる」と言われる様な団員を育てて行きたいと日々、頑張っておられます。

須磨浦ひろくの急げ消ちやん PART 38



北から南から

「洲本二大夏祭り」少し気の早い話ですが」

洲本市支部

洲本市は平成十八年二月十一日に旧洲本市と五色町が合併し、新しい「洲本市」として誕生した市で、淡路島の中央部に位置し、東に大阪湾、西に播磨灘を望み、自然環境にとっても恵まれた地域です。また、神戸市から五〇km圏にあり、市の中央部を南北に走る神戸淡路鳴門自動車道によって、明石海峡大橋を経て神戸へ五〇分程度で行ける距離にあります。

さて、この時期、洲本市では毎年八月に行われる二つの祭りに向け、準備が着々と進められています。洲本地域では、合併前より島内最大規模で最も歴史のある「淡路島まつり」が行われており、本年も第六〇回目として八月三日、四日の「おどろ大会(阿波踊り)」、五日の「花

火大会」が計画されています。淡路島で阿波踊りが何故?とお思いの方もおられると思いますので、少し説明いたしますと、淡路にとつて、阿波(徳島)は藩政時代の本藩の地であり、洲本には蜂須賀藩の城代家老稲田氏が居城して政務をとっていました。このように阿波と淡路は長い間、同一藩政であった関係で文化の面でも共通するところが多くあり、古くから阿波の踊りも淡路島に根付いておりまして、

祭り当日は、約五〇の踊り連が軽やかなお囃子のリズムにのって、本場徳島を彷彿とさせる阿波踊りを市内各所で披露してくれます。見物人の中にも、つい踊りだしてしまう人も出てくるほど市内は熱気に包まれます。



どろんこバレー



島まつり

淡路島まつりは、今では洲本の夏になくはならない祭りとなっています。

一方、五色地域では、江戸の豪商高田屋嘉兵衛の顕彰と夏の納涼を兼ねた「高田屋嘉兵衛まつり」が八月十二日、十五日の両日にわたり行われます。祭りには、神輿パレードや高田屋まつり音頭の踊り、そして夜には、花火の打ち上げも行われます。そのほか、年々趣向がこらされてきており、特に初日に行われる「どろんこバレーボール大会」は現在、人気沸騰中で島内外から約六〇チームが参加し、水田コートの中で熱戦を繰り広げます。参加者は体中を泥にまみれながらも「勝利」と「笑い」のため必死にボールを追いかけています。

これら二つの夏祭りにおいて、消防団は雑踏や花火の警戒など祭りの安全な運営に協力しています。読者の皆様も、この夏、ぜひ洲本へお越しいただき、夏祭りを堪能してみませんか。

地 区 通 信

神戸市消防団の再構築

神戸市支部

平成十九年三月、神戸市消防団再構築検討結果報告がまとまりましたので、これまでの経緯についてご紹介いたします。

神戸市の消防団組織、業務、団員確保等についての取組みは、市長の「行政経営方針」(厳しい財政下での市民サービスの選択と集中を行い、財政の硬直的構造を改革する)の一環として始まりました。

市民の暮らしを守り、地域防災力の充実強化を担う消防団のあり方について、各界有識者を委員とする「新時代の神戸市消防団検討委員会」で検討され、平成十七年三月、神戸市消防団の組織等について課題と改善に向けた方向性が提言されました。平成十七年七月には中央消防



新活動服



救護講習



防災福祉コミュニティ訓練指導



女性団員活動

団長を委員長、各消防団長を委員とした「神戸市消防団新体制検討委員会」を設置し、「新時代の神戸市消防団検討委員会」で提言された以下の課題について検討が行われました。

- 一 消防団の組織
- 二 消防団員の確保策
- 三 消防団員の業務及び研修
- 四 消防団員の処遇改善
- 五 消防団施設及び装備の整備

また、震災後一〇年の消防の取り組みを総括・検証し、新時代の消防のあり方を検討する「神戸二〇一〇消防基本計画検討委員会」から市長へ報告された基本計画を念頭に、検討が推し進められ、平成十八年三月、答申が出されました。昭和五八年以来の見直しで、

分団や団員定数等の大幅な変更の必要性がある消防団の組織については、本検討委員会の答申に基づき、平成十八年度に各消防団で細部計画を策定し、平成十九年度から実施し平成二三年度に完了することとなっています。

また、他の検討課題については、より具体的検討を行い消防団の再構築を推進するため、平成十八年八月から各団長、副署長を委員とする「神戸市消防団再構築推進委員会」で検討され、このたびの結果報告に至ったものです。

- 一 再構築検討委員会は、第一、第二分科会及び作業部会を設け、以下の項目について検討がなされました。
- 二 消防団員の確保策
- 三 機能別団員の採用、広報の充実、消防団協力事業所表示制度の導入、休団制度の導入
- 四 消防団員の業務及び研修
- 五 業務執行体制の見直し、研修の見直し、現場活動要領の作成

三 消防団員の処遇改善
報酬等の団員口座直接支給、出勤手当の細分化、活性化事業の充実

四 消防団施設及び装備の整備
本検討結果報告では、委員である各団長、副署長が、地域の安全を担ってきた消防団への熱き思いを胸に、非常に難しい課題についても自分達で取り組むとの思いで、解決策や方向性が打ち出されており、目下、各消防団では平成二四年度の新体制移行を目指し、組織及び人員の見直しなどの再編成に、消防団を挙げて取り組んでいます。

再構築の主な進捗状況は次のとおりです。
入団促進では、条例改正により、入団年齢制限六〇歳を撤廃するとともに勤務地要件での入団も可能となり、北消防団で二名が入団しています。

また、女性団員の定員枠(定数一〇%)を廃止するとともに、神戸市婦人団体協議会の支援により、女性団員の入団に地域婦人会の積極的な協力が得られる体制が整い、北区婦人消防隊の発展的解散を通じ、元婦人消防隊員(婦人会)四名が入団されています。

消防団員の処遇改善では、本年四月に三、〇〇〇着を配布した新活動服は、非常に好評で、消防団のイメージアップにもつながり、残る一、〇〇〇着も本年中に配布されます。

活性化事業では、昨年八月に消防団員によりホームページが開設され、一万人余りの閲覧実績を得ています。

編集後記

梅雨の季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今月号では兵庫県消防協会平成十九年度理事会・代議員会について掲載しております。また、消防団今昔には元高砂市消防団分団長阪口武さん、豊岡市城崎消防団団長日生下慎一さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。消防業務に携わる皆様には、大雨など何かと気がかりな季節だと思えます。災害への備えを十分に、体に気をつけてお過ごし下さい。

「こんにちは！ひょうごの消防団です」

<http://www.hyogoshoubou.jp/>



美と力を備えた
新しいテクノロジーが
社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学する
モリタです。

株式会社モリタ

本社 〒544-0003大阪市生野区小路東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119 FAX06(6756)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山



世界へ羽ばたく!

GMの消防自動車



大槻ポンプ工業株式会社

●本社・営業本部
〒623-0021 京都府綾部市本町7丁目67-2
TEL (0773) 42-0681 (代)
FAX (0773) 42-9229